



同窓会会報
第77号

平成16年12月28日
発行所
茨城県茨城郡
内原町鯉淵5965
鯉淵学園同窓会
☎319-0323 TEL029-259-2811
振替口座 宇都宮3-1632番
印刷所
旬双葉印刷

鯉淵学園創立六十周年記念事業募金への お願いと学園近況

鯉淵学園
学園長 井上隆弘

師走も押し迫ってまいりましたが、同窓生の皆様にはますますのご清祥のことと心からお喜び申し上げます。

さて、さきにお願ひ致しましたように、鯉淵学園創立六十周年事業として、学園では農産物直売所の建設を計画し（本誌七十六号イメージ図）、同窓会先輩諸氏からご寄付を募っております。多くの皆様のご賛同を得てかなりのご寄付をいただきましたが、現在のところ目標額一〇〇〇万円に対して約五〇％に達したところでございます。農産物の生産、流通、消費、食卓までの食農一貫教育を目指す本学園としても、直売所の完成に大きな期待を寄せているところです。その建設・運営計画についての詳細を本号特集として後述させていただきます。同窓生の皆様方におかれましては、一層のご理解をいただき、ご協力・ご支援のほど

よろしくお願ひ致します。

学園では、これまでと同様、学生の確保を最優先の課題として、取り組んでおります。昨春の入学者は総数八六名と定員の七割程度で相変わらず不振が続いておりますが、平成十七年度の入試状況は推薦入学が終わったところで、農業経営科三八名、生活栄養科二二名と両学科とも昨年同時期と同様であり、学園経営にも大きく響きそうな状況です。こうした事態に対して、学園内では、できうる限りの対策を講じ、あるいは精力的に募集活動をすすめております。三月末まで同窓生の皆様からの推薦による優先入試は受け付けておりますので今後ともご協力のほどよろしくお願ひします。また、この情報化時代、社会のニーズも若者の気質も大きく変化し、学生募集のためにも学園の体制の大改革を必要としています。

まず、学園の正式名を、名は体を表し教育内容が理解されるよう平成十七年度より「鯉淵学園農業栄養専門学校」といたします。通称名はこれまで通り「鯉淵学園」のままです。また、学園の古きよき伝統であった全寮制を改め、希望入寮制を取り入れる方向で現代気質の学生確保に努めたいと思います。さらに、魅力的

学生募集にお力を貸してください。

大変厳しい状況です

少子化によって窮地に立たされている短大、専門学校が多い中、鯉淵学園は同窓生のみなさんご協力もあって、なんとかぎりぎりの学生数を維持してきましたが、いよいよ鯉淵学園も瀬戸際に立たされています。入学定員一〇〇名の八〇％（九六名、四学年で三八四名）が学園経営の限界域です。昨年春は一〇八名が入学しましたが、今春は激減し八一名でした。現在は総学生数が三二八名で、とうに限界域を超えて苦しんでいます。

平成十七年度に向けて入学試験を開始しましたが、現在までの志願者数は六十一名にとどまっています。近年は願書提出がどの学校でも早くなり、年末までに大方の出願が終わってしまっています。このままですと、三月までの出願者数予想は八〇名に届かない可能性があります。

な学園とするよう教育内容、科・コースの改革、国際化教育の強化などを図ってまいります。学園がこれまで培ってきた長い伝統を受け継ぎつつ、現代社会が求める食農一貫、環境保全循環型教育に教職員一団となって努力していく所存でございます。皆様のご支援とご協力よろしくお願ひします。

教務部長 涌井義郎

入学者数・在学生数の推移（※在学生数は各年度4月現在）

区分	年度	11	12	13	14	15	16
入学者数		99	93	83	88	108	81
充足率(%)		82.5	77.5	69.2	73.3	90.0	67.5
在学生数※		429	389	351	334	327	328

各県の農業大学校も学生確保に苦勞してまいりまして、軒並み定員を割っていると聞き及んでおります。日本中で農業を「実践的に学ぼう」とする青年が減っているのかな、とも思えます。こうした状況の中、前号にお知らせしましたように、鯉淵学園では教育のあり方において日本一の農学校・食の学校をめざして改善の努力をしています。

同窓生のみなさんには、どうか、農業または栄養士(食)に関心を持つ青年を一人でも多く送り込んでいただきたく、ご紹介をお願いします。

優先入学制度があります

同窓生のみなさんの「推薦書」を入学願書に同封いただきますと「優先入学」として扱います。優先入学用の願書様式があります。ご連絡いただければ、鯉淵学園の要覧を同封してすぐお送りします。現役の高校三年生、または大学浪人中の意欲的な青年に、鯉淵学園をご紹介ください。

一年制の「実技研修コース」創設

四年間は長い、就農または海外青年協力隊参加前に一年間くらいの研修をしたい、という人のために、一年制の研修コースを設けました。主に農場実習を行いながら、学びたい専門分野の授業を選んで聴くことができるコースです。脱サラして就農を考えている青壮年の方々なども受け入れます。併せて、お知り合いの方々にご紹介ください。

新資格の具現化に向けて

在学中に取得できる効果的な指導者資格は、農業の世界で働きたいと志す青年たちを励ますために、ぜひとも必要です。鯉淵学園は、一貫して「改良普及員資格を取り上げるのであれば、これに代わる新資格を必ず準備せよ」と農水省に強力に訴えてきました。農水省は「新資格

についての具体的な検討会と予算確保に向けて」に対応してくれています。

そこで、鯉淵学園は、独自の新資格についても検討を行い、農水省に提案します。この新資格は、例えば「食農環境管理士(仮称)」とし、一般的な農業知識のほか、環境保全型農業や食の安全措置、トレーサビリティなどの知識・技術を判定し、食と農業のさまざまな分野で活用できるものにしたいと考えています。

年明けから農水省で行われる予定の「検討会」に届ける予定ですが、検討結果がどのようになるか、まだ未知数です。良い方向に実現するよう、今後も最大限の努力を行ってまいります。

学校名の変更について

「鯉淵学園」から「鯉淵学園 農業栄養専門学校」として、教育内容を明確に示す、名が体を表すものに変更して、どのような教育を行っている学校か分からないと言う疑問を払拭し、効果的な学生募集活動を展開したいと考えております。ご理解頂ければ幸いです。

寮制度の見直しについて

近隣からの入学志願者の中には、全寮制による心理的あるいは経済的負担により、入学を断念するケースも見受けられています。近年、減少傾向にある入学志願者増を目的とした寮制度の在り方を見直す方向で検討しています。

農産物直売所について

六十周年記念事業委員会

六十周年記念事業として農産物直売所を建設することについて、同窓生の皆様

からは絶大なご支援をいただきまして誠にありがとうございます。おかげさまで現在、建設の準備も順調に進んでいるところです。現時点で検討している計画概要は左記の通りです。

一、建設計画

。施設は建家二八坪、張り出し屋一〇坪程度の規模とし、既存の購買部横に連結させる。

。建設時期はH十七年四月〜八月頃とし、九月のオープンを目指す。

。建家と併せ、駐車場その他の周辺整備を行う。

二、運営計画

。直売所で販売する農産物は主に生産者会員(学園農場、同窓生、近隣農家)のものとし、「環境保全型」をコンセプトとする。安心・安全・新鮮をモットーに、「有機農産物」「減

農薬・減化学肥料農産物」を多く配置し学園直売所としての特色を出す。

。学園事務部・教務部・生産者会員の三者による運営委員会を設置して、組織全体の管理・運営にあたる。将来的には消費者の組織化(会員制など)を図り、消費者代表を運営委員

に加えて消費者ニーズを反映させることも考える。

。直売所には専任の店長を置くとともにパート職員数名を配し、学生アルバイトも加えて日常の管理・運営を行う。また、学生も農場管理実習や生産加工販売実習の一環として年間を通じ運営・管理に参加する。

。営業は午前十時より午後七時まで、火曜日を定休日として年末年始を除き毎日開店する。

。品物の配置は、学園農産物(学園物産センター)、同窓生農産物(全国物産コーナー)、地域農産物(地域物産コーナー)に分けて行う。既存の購買部は日用雑貨品コーナーとして直売所と一体化させる。

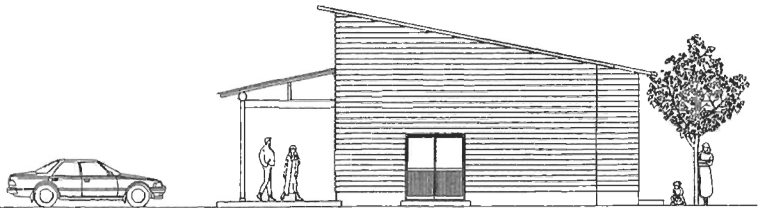
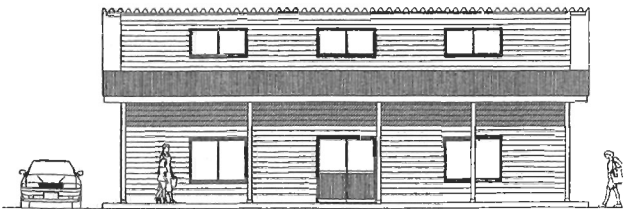
。地域農産物の配置は売れ残りの処分を含め生産者会員の責任において行い、売上げに対し一定率の販売手数料を徴する。

。同窓生の農産物と農産物加工品については、アンテナショップとしての性格上、少量多品目とし、追加注文は客の直接申し込みとする。農産物は委託販売とするか、直売所の責任による買い取りとするかを検討、それぞれの具体的方法について今後詰

めてゆく。

。POSレジシステムを導入することにより、商品管理、販売管理、売上分析などを効率的かつ効果的に行う。当面、以上の計画で準備を進め、開店時までには実務計画を整える予定です。五年後には七、〇〇〇万円位の売上げを目指したいと考えています。

平成十七年十一月の、学園祭や同窓会大会の前後に、直売所に関連したイベント等を企画し、同窓生の皆様にお披露目できる機会を設けたいと考えております。



よろしくお願いいたします!!

学園新スタッフの自己紹介

〔廣木 政昭〕



教授、家畜衛生学、
家畜病理学専攻

昭和四十一年、
日本獣医畜産大学
獣医学科を卒業し、
茨城県に奉職。家

畜衛生、畜産行政、試験研究機関等に勤務し、今年三月に県北家畜保健衛生所長で定年退職しました。特に研究機関勤務時には、牛受精卵移植技術の普及を図り、関係獣医師に技術の伝達や家畜人工授精師に移植師資格取得のための講習会を開催し、その養成に努めました。平成十三年度から携わった家畜衛生では、口蹄疫、国内初の牛海綿状脳症、鳥インフルエンザの発生など話題の絶えない業務を経験しました。畜産現場で習得した技術等を生かし、学園において畜産技術者の育成に努めて参りたいと考えておりますので、よろしく願います。

〔尾澤 憲彦〕



農場部助手・50期
神奈川県出身、
50期卒業です。巡りめぐって鯉洲学園に戻ってくるこ
とができました。

学生時代、学園ではじめて農業にふれ、いまだ勉強中の身です。学生の皆さんと共に

学ぶ姿勢を大切にしながら前に進んでいこうと思います。農業の楽しさを皆さんと一緒に感じていきたいです。どうぞよろしく
お願いいたします。

〔古田 雅則〕



農場部助手・54期
鯉洲学園を卒業
後、青年海外協力
隊としてアフリカ
のブルキナ・ファ
ソという国で二年

間活動をしてきました。貴重で有意義な体験でしたが自分の不勉強が身にしました。今回、学園の農場で働けることになりました。一度しっかり勉強をやり直したいと思っています。また学生時代には学園の教職員をはじめ、研修先の生産者の方々など、さまざまな人のお世話になりました。これから学園職員として少しでも学生の役に立てるよう努力したいと思っています。よろしく願います。

〔野村 邦之〕



農場部主事補
55期
生まれも育ちも
茨城県です。普通
科高校を経て鯉洲
学園第55期生とし

て入学し、充実した四年間を過ごしていた

ことがつい先日のことのように思い出されます。卒業後は農業機械販売会社に就職し、主に機械整備に従事しておりました。縁があり、この春より母校である学園の畜産・加工課で働く事になりました。学生の中に混じるといつい気持ちが若返ってしましますが、「気力・体力」ともに学生に負けないように頑張っていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

〔益子真由美〕



学生生活部主事補
56期
内原に出てきて
六年になります。
栄養士になろうと
心に決め、鯉洲学

園の門をくぐりました。在学中は、栄養士さんに少しでも近づきたいという気持ちから学生食堂の厨房でアルバイトをしていました。その学生食堂でのアルバイトを通して食事を提供する難しさや、楽しさを身にしみて感じる事ができました。今は、学園を卒業し栄養士になることが出来ました。自分の経験を在學生に少しでも還元できるように努力していきたいと考えています。これからは、学生とともに学園のすばらしさをもう一度見直し成長していきたいと思っておりますので、よろしく願います。

〔中根 千春〕



学生生活部主事補
57期
今年三月に鯉洲
学園の生活栄養科
学科を卒業し、四
月から実務経験栄

養士※として学生食堂で働いています。出身は茨城県の銚田町です。これから一人前の栄養士として働けるように、栄養士としての実務をしっかりと学びながら、管理栄養士の資格取得を目標に頑張りたいと思っています。また、学生のみなさんがよりよい食堂利用が出来るよう努力していきたいと思っておりますので、一年間という短い間ですが、宜しくお願いいたします。

〔大鳥恵理香〕

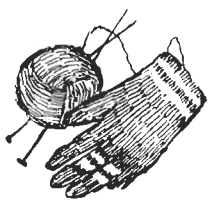


学生生活部主事補
57期
今年の三月に本
校の生活栄養科学
科を卒業し、実務
経験栄養士※とし

て学生食堂で働いています。出身は青森県の八戸です。生活のしやすさは、何と言っても茨城が過ごしやすいですが、雪がとても恋しくなります。

今までは学生食堂食を利用する立場でしたが、これからは学生がさらに楽しみながら食事を出来る環境になるよう、努力していきたいと思っております。よろしく願います。

※実務経験栄養士制度は、管理栄養士受験資格取得のために、鯉洲学園学生食堂で二年間勤務する制度です。



資格試験の経過について

教務部長 涌井義郎

学生諸君の勉強も後期に入り、一、二、三年生は進級に向けて、四年生は卒業・就業に向けて頑張っています。

管理栄養士資格試験が三月に

管理栄養士資格試験は毎年五月にありましたが、今年の四年生から三月に行われます。就職の前に資格が取れるよう、受験する学生は勉強に熱が入っています。管理栄養士の資格試験は合格率二〇%未満のとても難しい試験と云われています。四年間の勉強をフルに活かして一人でも多く合格できるよう、先生方もあの手この手で指導しています。

ホームヘルパー二級資格に

毎年チャレンジ

茨城県栄養士会が、鯉淵学園の教室を使ってホームヘルパー二級の講習会を開催しています。鯉淵学園生も毎年数名から一〇名が受講し、資格を取っています。生活栄養科学科の学生だけでなく、農業経営科学科の学生も受講する例があります。都市部、農村部を問わず介護の知識と資格はおおいに活かせるものと考えています。

農業経営科学科の新資格

改良普及員資格試験は今年が最後です。二〇名余りの四年生が受験し、順に合格

の知らせを受け取っています。

昨年来、改良普及員資格に代わる新資格を農林水産省をはじめ、関係の機関に強く訴えてきました。訴えが実って、農林水産省は予算措置を始め、来年度に新資格が実現できそうです。現在の三年生から卒業前に受験できる見通しが見えてきました。

年末から新資格の内容や実施方法をめぐって農水省内で「検討会」が行われます。鯉淵学園の教育が活かされるよう、農業経営や農業技術に関わる項目の他に、環境保全型農業や食品の安全の専門知識を証明できるような新資格を、とさらに訴えていきたいと考えています。生活栄養科学科の学生が受験できるような分野も実現できたらと期待しています。この点はまだ未知数です。

畜産・加工コースでは、現在の三年生から「家畜体内受精卵移植師」の資格が取れるカリキュラムを組んでいます。家畜人工授精師の資格とともに、コース学生の全員が取得できるよう期待し、充実した指導を心がけてまいります。

支部・同期の動向

東京支部同窓会について

平成十六年三月二十七日(土)、中野サンプラザに於いて、井上隆弘学園長の出席のもと、東京支部の総会が開催されました。議題として、「六十周年記念事業募金」並びに「首都圏支部の集い」について、議論がなされ、目標達成のためにも今後も活動を推進していく事が確認されました。その後の懇親会では、学園長を中心に盛り上がりを見せ、盛会のうちに終了しました。しかし、最近、年々と出席者が減少しており、新たな同窓生の、同窓会への参加が望まれる等の問題点も現れています。今回の総会に於いて、住吉達男氏から17期生の土方貞信氏に支部長が交わりました。



十二期生会南国宮崎で開催しました

鯉淵学園卒業から五十年、十二期生会を五月十九日、二十日の両日、南国宮崎で開催しました。参加者は家族も含めて二二名でした。

この計画は、前回佐渡で開催した際決めたもので、宮崎県在住の大賀さん（旧姓橋口）が設営しました。第一日は北郷町のユートピア日南杉の湯で豪華なホ



テルではありませんでしたが、静かですっきりつるげる温泉保養地でした。

私たちも古希を迎える年代となり高齢者の仲間入りをしましたが、気持ちはまだ青年で夜の更けるのも忘れて語り明かしました。

二日目は青島などの観光地巡りを実施いたしました。季節はずれの台風の影響でしたが、近であいにくの気象条件でしたが、午後からは晴れあがり、南国宮崎の初夏を満喫することができました。

次回は年齢のほぼ最終回になると予想されるので学園ではとの意見もありましたが、古都の奈良で二年後（十八年五月ごろ）に実施することになり、関西地区のみなさんの協力をいただいて上田さんが設営することに決まりました。

次回はぜひご参加ください。



十四期生 長野大会

六月四日・五日の両日、十四期生は長野県小谷村白馬乗鞍高原の「白馬アルプスホテル」で長野大会を開催しました。

四日の午後、JR長野駅に集合し、バスで小谷村に入ったのですが、この日は一年を通して数日しかないという好天で連なる北アルプス、とり分け白馬の残雪や岩肌もくっきりと青空に映し出された雄姿を堪能して貰えたと思っています。

今回の出席者は総勢四三名、内同伴者七名、初参加者が一四名居たこともあったことから盛り上がり、三時間に及ぶ大会の中でも充分語り尽せない程でした。最後に歌った寮歌は遠い昔を思い起こさせてくれたのも大勢の力だと感激いたしました。

翌日も好天でオリンピックの開かれた白馬ジャンプ台の見学や善光寺参拝を済ませたあと、信州そばの昼食をとり、次期開催地に決まった静岡県を代表して、原崎充弘君の挨拶を受けて終了しました。

大方の皆さんはJR長野駅から名残惜しく再会を約束して別れましたが、一部は黒部ダム見学や杉本城などへも足を伸ばして、信州の初夏を楽しんでくれたようです。

参加してくれた同期生諸氏に幹

事一同感謝して居ります。また未参加の同期生諸氏よ、次回開催の静岡は必ず参加されることを希望し、報告とします。

（栗林郁人）



鯉淵学園群馬県支部同窓会開催される

歴史的な猛暑がスタートした六月二十五日(二十六日)にわたり群馬の名湯伊香保温泉にて開催された。隔年開催を原則としていた同窓会もメンバー諸士の都合で一年間キャリアオーバーとなったが、松井群馬支部長を中核とする役員スタッフの尽力により、今回は高橋同窓会長・井上学園長を本部から迎え充実した同窓会となった。特に、「鯉淵学園六十周年記念事業」については、田部非常任委員の経過報告と協力依頼がなされ、加えて高橋同窓会長より同窓会の現況と六十周年記念事業への取り組み方策が会員に周知され、記念事業としての「同窓会アンテナショップを兼ねた農産物直売所建設」の全容が明らかにされ、出席会員の果すべき役割と機能も明確化された。加えて井上学園長からは、学園を取りまく近況や学生募集・学生の就職状況、研究開発にいたる御報告をいただいた。記念すべき学園の六十周年にあたり、参加メンバーから県内会員への情報発信をいただくことを確認し、松井支部長の挨拶をいただくなか、なごやかな同窓の宴が開宴され同窓生の近況あるいは様々な分野での活躍等が話題となり盛り上がった群馬県支部の同窓会となり、平成十八年再会を約し、なごり惜みつつ意義ある同窓会を終了させていただきました。

本部より遠路御出席をいただきました高橋同窓会長・井上学園長に感謝申し上げます。御報告と致します。

(幹事長 黒澤賢治)



写真説明

前列左側から
田部井24、松井24、高橋、井上、阿部4
富永9、土屋24
中列左側から
中澤、川端25、高橋29、蜂須賀29、椿27
鷲坂26
後列左側から
黒澤25、佐藤39、飯島26、女屋33

茨城支部

卒業期別代議員懇談会開催される

支部長 倉重 一夫

七月十七日(十八日)、ひめま荘に於いて、井上学園長・高橋同窓会長をお迎えして、1期生から57期生までの卒業期別代議員を対象に懇談会が開催された。

出席者は二四名、2期から14期までは殆んど出席したが、中堅及び若い卒業生の出席が少なかつたのが残念であった。

懇談会は、主催者代表あいさつから始まり、井上学園長から鯉淵学園をめぐる情報が特に最近入学者が減少していることが報告され、同窓会に対して学生募集の協力が要請されました。

懇談会は「食と農」の本物ニーズが高まっている中で、それをめざしている鯉淵学園への入学生が減少していることはどうしてか?など懇談されました。

先輩の出席者から、関係機関や職場から鯉淵学園の卒業生が評価されていた。

それが、最近、鯉淵学園の名前が聞かれなくなってきた。これが入学生の減少につながっているとの意見が多く出された。

その意見を総括すると

- 一、教職員は関係機関に出張し、鯉淵学園をもっとPRすべきである。必要なら、同窓生が案内する。
- 二、学生を集めるためには就職先を確保してやる必要がある。
- 三、そのためには、その機関が必要とする

る事業を教育し、それをセールスポイントとして学生の売り込みに努力すること。



四、従って、教育も総合的な広く浅い教育から、専門的な、特徴ある実践教育が要請される。

五、学生に現実の職場の厳しさを教育すること。教職員も教育なんだから質が悪くても、赤字になってもしょうがない等、甘えから脱却、厳しい経営教育が必要である。

等、鯉淵学園が各職場に学生を送り出すセールスポイントになる事項の意見が出された。

六十周年記念事業

代議員と期別発起人を選出し、同期生に協力を呼びかける。

広島支部結成総会

広島支部長 桑原 謹二

七月二十五日、広島市に於いて鯉淵学園同窓会広島支部大会が開催され、これまで運営が休止されていた組織を活性化することが決定されました。

出席者は一六名、慎重に審議され、規約の設定、役員が選出されました。

懇談会では、青春時代の思い出に話はずみ寮歌を歌って交流をたかめました。

今後は定期的に集会を開き、交流をたかめることになりました。

代議員懇談会の開催
毎年一回は、代議員懇談会を開催して意志疎通をはかることになった。



二十期生 北海道大会

第二十期生の同期会が北海道で開催されましたので、その概要を左記のとおり報告します。

去る八月七日(土)から八日(日)の一泊二日

の日程で二十期生の同期会を札幌・定山溪温泉で開催しました。

当日、遠くは福岡県から、全国各地より一九名同期生とオブザーバーで二十一期生二名が参加して盛大に開催されました。

今年の北海道は府県並みの猛暑で涼を期待して来道した皆さんには申し訳なかったが、四十年前の学園での夏季実習が思い出されて懇談が弾み、早朝まで話が尽きない有意義な一日を過ごしました。また、都合で出席できなかった同期生の近況なども話題での参加をして頂きました。

翌日は参加者一同、北海道勢の白家用車に分乗して一路小樽へ。小樽では観光名所の「小樽運河」や「石原裕次郎記念館」などを観た後、小樽の新鮮ネタの「にぎりずし」

を頼張り、次回三年後に沖縄での再会を約し散会しました。
(広岡生)



写真説明

前列左より 植木、高橋、北口、西田、早川、中田(旧鈴木)、佐藤(旧中山)
中列左より 山本(旧佐藤弘)、野村、宮川、石井、佐藤良、鈴木(旧原)、嶋谷
後列左より 広岡、池田(旧佐藤重)、石川、佐藤健、奥山、石橋、森島

卒業五十周年記念九期会開催される

本年六月十日・十一日、鯉淵学園とつくばランドホテルを会場にして五十周年記念九期同窓会茨城大会が開催された。

出席者はご夫婦同伴者も含めて五四名、第一会場の鯉淵学園では先ず、井上学園長より祝辞と六十周年記念事業、学生募集並びに学園の試験研究について支援の協力要請があった。

協議事項の次期開催場所については北海道とし開催時期は福家氏に一任することになった。また九期五十周年記念文集(各自二千字執筆)を発刊することとし、世話人に山崎氏と田所氏と及川(敬)氏が決まった。

懇親宿泊会場の筑波山山麓のつくばランドホテルではアトラクションとして同窓会副会長兼茨城支部長 倉重一夫氏(11期)ファミリ一面々による郷土芸能披露があり、和やかな懇親に花を添えた。

同期会開催に当たっては田所氏の献身的なご努力があり、結果的に後日相当数の同窓から感謝のメッセージが寄せられた。また氏の慰労会も開催された。

尚、鯉淵学園の試験研究支援については、参加費の中に折り込み出席者全員が千円の寄付をした。



写真説明

前列左より 大島、家村、辻、樋口夫人、箱石、箱石正、井上学園長、高橋(隆)、福丸、小野寺、原田
 二列左より 福家、仙城夫人、及川(博)、清水、藤田(一)、渡沢夫人、島崎、家永、及川(敬)、大高
 三列左より 樋口、内山、菊地夫人、内山、山崎、榎屋、青木、吉岡、長田、斉藤、田所、小泉、阿部、渡部、山本、菊地、内山
 後列左より 山崎、千葉、藤田(俊)、山崎夫人、辻夫人、山本夫人、福丸夫人、三沢夫人、三沢、根本、株田、飛田、白上、高山

十六期生 in 長崎

石田 善 吾

二年に一回全国持ち回りで開催している十六期会は、二年前の前開催地高松に続いて、今年は長崎県在住の山口武(旧姓平地)、吉村成元、松野昭子(旧姓栗田)さんの周到な事前の準備のおかげで、長崎市の夜景のきれいなルークプラザホテルで開催されました。

同期二二名(夫婦同伴出席九名)が長崎に集い四十数年前の学生時代を懐かしみました。

今回は隔年開催を短縮して、来年に開催することに、保科周三氏のお世話で山形で開催することにになりました。来年は保科氏から別途案内されると思います。

すが、今回出席できなかった人も次回はご夫婦同伴で是非ともご出席ください。翌日は、幹事の肝いりで長崎市の諏訪神社等の秋祭り行事を再現した「長崎くんちモチモチイ」を見物して山形で再会を約して散会しました。



写真説明

前列右より 前原敬、吉田健治、走出栄八、石田善吾、保科周三、荒川仁
 中村祐次、藤井隆之
 二列右より 4人目 林(山口)喜枝、5人目 住谷(稲野辺)里子
 7人目 松野(栗田)昭子
 三列右より 4人目 山上仁、森川紀一、吉田善幸、中津秀明、吉村成元
 後御右より 中村正光、本池弘文、宮城勝茂、村上(熊谷)善明、土方(日高)貞信、山口(平地)武

鯉淵学園四期生会山口大会

秋も深まりました。今年度は重なる台風襲来で、全国的に大変な被害を被りましたが、皆様のところでは如何でしたか。さて、山口市湯田温泉で開催しました私たちの四期生会は、十月十三、十四日の両日、天候に恵まれ、

北は北海道、南は鹿児島からの三四人(内ご家族一人)の参加を得て、なかなかの盛会でした。記念写真撮影の段では、カメラ使用が久しぶりだったため、使い方を忘れた担当幹事が大汗かいてテンテコ舞。フロントの応援を求める一幕もありましたが、そこは『この手の温み忘れめや』の友情の大笑いで切り抜けさせてもらいました。

松永 武之
小堀 武臣
鈴木 和典
山口大会幹事

秋も深まりました。今年度は重なる台風襲来で、全国的に大変な被害を被りましたが、皆様のところでは如何でしたか。さて、山口市湯田温泉で開催しました私たちの四期生会は、十月十三、十四日の両日、天候に恵まれ、北は北海道、南は鹿児島からの三四人(内ご家族一人)の参加を得て、なかなかの盛会でした。記念写真撮影の段では、カメラ使用が久しぶりだったため、使い方を忘れた担当幹事が大汗かいてテンテコ舞。フロントの応援を求める一幕もありましたが、そこは『この手の温み忘れめや』の友情の大笑いで切り抜けさせてもらいました。

十三日は総会と懇親会、十四日は山口市内観光と秋吉台・秋芳洞観光の二班に別れて史跡・風物を楽しみながら親睦を深めることができました。来年は、鯉淵学園創立六十周年の節目に当たる年でもありますので、鯉淵に近いところでの開催

の方向で、検討されることになりました。お互いに呼び掛け合って参加しましょう。



写真説明

前列左より 松永、磯田夫人、松本夫人、安倍夫人、湯川夫人、松尾夫人、井上夫人
 中列左より 荒川夫人、大曲夫人、折田夫人、森夫人、折田、荒川、小林、森、鈴木
 後列左より 小堀、磯田、松本、安倍、湯川、丹羽、瓜生、井上、中村、佐藤、西村

「節目の三十周年は学園で」と、二十七期会は銀杏並木が色づく二〇〇三年十一月二十二日二十三日、思いの地 茨城で「卒業三十年の集い」を開催しました。

初日の交流会場となったオーシャンビュー大洗には、南は沖繩から、そして北は岩手から総勢三七名の仲間が参加、会えばすぐに三十年前にタイムスリップする不思議さ、時間を惜しむように深夜まで交流の集いは続きました。

集いには川井光先生、安藤義道先生に参加いただき学園の近況報告とご挨拶をいただきました。

二日目は学園を訪ね秋色に染まったキャンパスや女子寮、男子寮を散策、昼には食堂でさまざまな思い出を噛み締めながら昼食会。

三十年前と同じく図書館前で記念撮影をし、三年後二〇〇六年沖繩県石垣島での再会を約してそれぞれの旅路へつきました。

二十七期三十年の集い幹事
飛田 元雄

二十七期会 卒業三十年の集い 大洗で開催



平成十六・十七年度会費納入者名簿【報告】

平成十五年十二月十六日から平成十六年十一月三十日までの払込通知受理分。確認と領収証書代わりの報告です。間違い、ご不審の点はご連絡願います。
また、領収証書を必要とする場合はご請求ください。○数字は卒期、括弧数字は通信過程卒期です。

◎年度会費

○十四～十六年度分

- 【岩手】 ③ 佐藤 節夫

○十五年度分

- 【広島】 ④⑥ 宇根崎 徹

○十五・十六年度分

- 【北海道】 通3 山崎 政治
- 【宮城】 通3 高橋 文男
- 【茨城】 ②⑥ 谷 沢 治
- 通2 山崎 昭二
- 選15 菊地 貞三
- 【新潟】 通2 二宮 静衛
- 【鳥取】 ②④ 近 池 憲太郎
- 【高知】 実9 浜田 稔喜

○十六年度分

【兵庫】

- ② 正木 浩二
- ⑩ 加藤 年正
- ⑱ 長峯 年正
- ⑲ 高木 經吉
- ⑳ 田中 義治
- ㉑ 吉川 千鶴子
- ㉒ 西浦 英子
- ㉓ 長尾 輝夫
- ㉔ 藤本 敏雄
- ㉕ 孝橋 利己
- ㉖ 西田 博
- ㉗ 山本 篤
- ㉘ 山川 和也
- ㉙ 近本 昌博
- ㉚ 芦田 靖司
- ㉛ 富垣 淳生

【青森】

- ⑳ 佐藤 士郎

【岩手】

- ⑨ 小野寺 芳男
- ⑭ 高橋 貞雄
- 通3 大平 吉憲
- 通5 猿舘 敬三

【秋田】

- ④ 広島 実
- ㉓ 堀川 喜久雄

【山形】

- 通5 横山 富弥

【福島】

- ⑳ 山田 陽香

【茨城】

- ⑩ 市野沢 弘
- ⑭ 松本 定雄
- ⑱ 岡田 新生
- ㉗ 生天目 滋
- 研8 野村 祐三
- 【栃木】 通2 笠原 禮司

○十六・十七年度分

- 【北海道】 ⑬ 田中 幸
- ⑱ 荒木 良司
- ⑲ 升田 文夫

【群馬】

- ⑳ 中沢 美知子

【埼玉】

- ⑨ 渡澤 保彦

【千葉】

- ② 斎藤 省三
- ⑩ 杉本 守城
- 選18 高橋 篤

【神奈川】

- ② 宮川 英一
- ③ 奥田 平二

【新潟】

- ② 角山 優子

【富山】

- ⑱ 松島 徹雄

【福井】

- ④⑤ 若杉 浩司
- ③⑩ 寺島 尚登

【長野】

- ⑤ 森井泉 範 穎
- ⑬ 若林 久登

【岐阜】

- ⑳ 伊藤 朱美

【静岡】

- 通4 西村 省一
- ⑤⑪ 神尾 尚宏
- ⑭ 足立 雅人
- ④ 荒木 秋男

【滋賀】

- ⑤⑪ 神尾 尚宏

【大阪】

- ④ 荒木 秋男

【鳥根】

- ⑳ 岡本 幹雄

【山口】

- ⑨ 藤田 司朗

【香川】

- ⑳ 神出 登

【福岡】

- ⑤ 仙波 岩己
- ③ 佐野 治人
- ④ 西山 壽

【佐賀】

- ③ 江頭 茂喜

【大分】

- ④ 丹羽 新吉

【鹿児島】

- ⑤⑦ 竹島 大

【沖縄】

- ②② 金城 正春

○十六～十八年度分

- 【兵庫】 ⑬ 近本 昌博

○十六～十九年度分

- 【福井】 ③⑨ 高津 豊博
- 【長野】 ⑲ 牛山 壽文
- 【埼玉】 ⑤⑦ 栗原 伴治
- ⑤⑦ 中村 和博
- ⑤⑥ 野澤 ゆう
- ③⑨ 羽成 誠
- ③③ 杉山 博美
- ③③ 木村 友浩
- ⑲ 小沼 和重
- ⑲ 菊池 勝一
- ⑮ 桑原 美代
- ⑧ 谷田部 輝雄
- 【茨城】 ⑤⑦ 渡辺 忠洋
- ⑤⑦ 石黒 鉦一
- ⑲ 加藤 鉦一
- 【山形】 ⑤⑦ 山家 賢太郎
- ⑤⑦ 仙崎 敬之
- ⑱ 中鉢 礼子
- 【宮城】 通4 千田 豊文
- 【岩手】 ⑤⑦ 奈良 崇生
- ⑤⑦ 花田 ひとみ
- ⑤⑦ 志賀 糸子
- 【青森】 ⑤⑦ 中西 里志
- 【北海道】 ⑤⑦ 中尾 明人
- ④ 本田 茂

◎終身会費

◎協会寄付金

【群馬】 小森谷 亮一

【宮城】

③③ 池田 とも子

①⑨ 中鉢 礼子

【新潟】

【茨城】

①⑨ 伊藤 典子

⑨ 高橋 隆三

【長野】

⑨ 大島 武男

⑤⑦ 唐澤 理恵

②⑤ 根本 保夫

【福井】

【群馬】

④⑤ 若杉 浩司

⑨ 富永 治

⑤⑦ 越後 奈瑠美

【埼玉】

⑤⑦ 丹羽 奈津子

⑨ 藤丸 博房

【京都】

【千葉】

通④ 高尾 敏夫

⑨ 山崎 修

【鳥取】

⑨ 齊藤 常夫

④ 中村 剛二

【東京】

【島根】

⑨ 白土 忠男

通① 坂本 茂久

⑨ 山之内 忠男

【岡山】

⑨ 中西 昭司

⑨ 別所 松夫

①⑦ 住吉 達男

【広島】

【長野】

⑤⑦ 猪足 芳雄

⑨ 樋屋 喜吉

【高知】

②④ 大日本農会

⑤⑦ 三宮 秀幸

②④ 全国農業改良普及協会

【福岡】

協会及び学園職員

⑧ 金高 敏輔

木村 多美子

【熊本】

井上 隆弘

賛北 野典爾

浦井 義郎

【宮崎】

山本 英治

⑤ 白坂 正治

入江 三弥子

【大分】

相井 孝允

⑤⑦ 高橋 洋介

川井 光

川崎 昇三
及川 隆光
堀田 弘
藤澤 一郎

◎六十周年記念
事業寄付金

平成16年3月19日現在

【北海道】

④

佐藤 存

⑨ 福家 正直

①⑦ 谷越 耕三

①⑨ 伊東 馨

①⑨ 三品 賢二

①⑨ 升田 文夫

②③ 野村 俊一

②③ 谷口 秀美

②③ 厚海 多美子

②⑤ 松本 和恵

③③ 中川 悦生

④⑧ 厚海 裕美子

⑤④ 及川 英恵

通② 関武 志

通③ 村瀬 健一

通⑤ 谷智 光正

通⑤ 谷原 丈夫

【青森】

⑦ 浜田 昭三

⑫ 鎌田 美春

③ 國分 喜治郎

守屋 高伍
小川 昭
鈴木 寛
阿部 豊
小野寺 芳男
佐藤 共成
高橋 貞雄
岩淵 齊
三浦 邦雄
久茲 宗悦
菅原 彰
千葉 照雄
松本 照香
通④ 田村 信一

【宮城】

⑨ 千葉 常祐

①⑨ 中鉢 礼子

⑧ 伊藤 清之助

⑩ 小西 三治

⑩ 原田 耕作

⑩ 武藤 恒美

⑭ 吉成 雄象

⑲ 門脇 雄保

⑳ 河村 正孝

㉓ 藤原 雅記

【山形】

⑥ 竹津 廣

⑩ 小野寺 孝

⑩ 高橋 忠助

⑩ 水澤 紀子

⑬ 阿部 智

⑱ 佐藤 勝男

見玉 昭一
渡辺 芳江
齋藤 伸二
齋藤 裕美
浅川 満進
通① 佐藤 寅雄
通③ 奥山 寅男
【福島】

⑦ 穴戸 篤

⑨ 根本 誠

⑩ 唐橋 勇吉

⑩ 須田 鉄二

⑩ 二瓶 重喜

⑭ 三瓶 美津子

⑮ 松尾 斉昭

⑰ 池田 興逸

⑲ 鈴木 尚

⑳ 青木 光

㉒ 物江 浩二

⑳ 渡辺 浩二

④⑨ 通① 窪田 喜代衛

【茨城】

② 高橋 昭二

② 萩原 耕作

⑤ 砂田 義雄

⑥ 立原 徳治

⑦ 岩持 文彦

⑦ 立見 健祐

⑦ 坪野 敏美

⑦ 中村 信夫

⑦ 廣原 宗次

⑦ 松田 暄信

須崎 智久
須崎 喜久男
向井 輝雄
谷田部 作次郎
清水 隆三
高橋 一二三
藤田 一二三
吉岡 一男
佐藤 康
平田 三男
山口 公三
神永 敏男
野原 小右二
三原 小右二
大平 光弘
櫛村 精三
本宮 好美
稲川 正夫
梅崎 孝臣
及川 拓男
岡野 ちか
益野 一
小原 美時
桑原 幸代
小原 幸代
堀田 幸弘
山崎 巖
須田 哲也
宮内 幸司
大竹 利一
河内 修
五島 弘
中山 洋
色川 巴

研13 北野祐一
通3 河村庄右衛門
【岐阜】
① 清水一夫
⑦ 交告正義
②④ 小池正悟
③② 伊藤朱美
【愛知】
⑦ 奥田勝巳
⑩ 鈴木辰男
⑩ 大瀧昭吾
⑩ 竹田邦雄
②③ 伊予田忠昭
選19 水上雅雄
【三重】
⑦ 山中種郎
【滋賀】
① 高田利通
⑩ 駒井浩一郎
②③ 北上元一郎
【京都】
④ 片山茂
④ 藤井文信
④ 竹村敬子
⑩ 池田勝紀
⑩ 森田愛子
⑩ 森田益男
⑩ 竹村洋一
④⑧ 梅原山季子
【大阪】
④ 荒木秋男
⑨ 山本守
⑩ 石郷岡康男

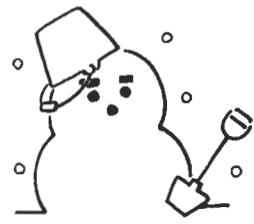
⑩ 今井定彦
③② 山田絹代
【兵庫】
⑩ 加藤整
⑩ 小島好文
⑩ 普光江文
⑩ 中嶋則子
⑩ 井口成子
⑩ 田中義治
⑩ 吉川千鶴子
⑩ 大林幸子
⑩ 岡本昭治
⑩ 岡本多恵子
④④ 高見康彦
【奈良】
⑧ 吉谷澈
⑩ 井上薫
【和歌山】
⑩ 和泉博己
⑩ 平木郁夫
⑩ 門脇久子
⑩ 徳永悦子
【島根】
⑩ 福田幸三
⑩ 石田一秀
⑩ 曾田美保子
⑩ 遠藤孝
⑩ 佐藤貞之
⑩ 岡本幹雄
⑩ 青木ゆみこ
【岡山】
④⑥ 桑村憲

① 山中由夫
⑦ 高東正雄
⑩ 谷川法之
⑩ 三須久登
⑩ 福田剛士
【山口】
③ 山本英治
④ 鈴木和典
④ 原田美幸
⑩ 中村一郎
⑩ 木村一
⑩ 松原宗生
【香川】
⑩ 宮崎岩美
⑩ 山花健
【愛媛】
⑩ 大塚俊秋
⑩ 西谷博志
⑩ 西谷邦子
【高知】
⑩ 通2和田幸雄
【福岡】
② 土井三千一
⑦ 村上龍生
⑦ 金高敏輔
⑩ 森友重勝
【佐賀】
③ 橋口俊視
④ 大曲榮
⑩ 加茂孝夫
⑩ 佐々木正英
⑩ 坂口ミヨ子

⑩ 森田道子
【長崎】
⑩ 浜本正成
⑩ 浜村道俊
【熊本】
⑩ 鳥居憲太郎
⑩ 上島良一
⑩ 岩下尚美
⑩ 田端義雄
⑩ 通3江良積
⑩ 通4安達功
【大分】
⑩ 川崎進
⑩ 尾石正忠
⑩ 小金丸協子
⑩ 後藤秀一
【宮崎】
⑩ 園田正平
⑩ 満留藤男
⑩ 吉田憲次
⑩ 松本カズ子
⑩ 塩見慶子
実10 日高諦進
【鹿児島】
⑦ 本田親弘
⑦ 江崎光守
⑩ 平原勝
⑩ 中野重雄
⑩ 中野紀代子
⑩ 溝口道寛
⑩ 川尻道寛
⑩ 川元昭廣
⑩ 片野和美

⑩ 下小園孝子
⑩ 松木田薫
⑩ 久木田雅子
通3 吉見哲一
⑩ 宮平林一郎
⑩ 宮銘千代子
⑩ 宮城勝繁
⑩ 宮里里子
⑩ 池原秀明
⑩ 新垣盛光
⑩ 喜納博文
⑩ 田嶋勝子
⑩ 宮平エミ
⑩ 宮川久子
⑩ 池間景清
⑩ 喜久山守良
⑩ 新川康弘
⑩ 砂川栄良
⑩ 正木虎夫
⑩ 砂川栄一
⑩ 新里久吉
⑩ 平里朝幸
⑩ 山里昌明
⑩ 太田治雄
⑩ 洲鎌善充
⑩ 上地善巳
⑩ 砂川善正
⑩ 平川朝英
⑩ 友利修
⑩ 宮平浩
⑩ 宮地茂
⑩ 下地昌
⑩ 豊見山恵昌

④② 嵩原健一
④③ 金城隆
④④ 根間盛夫
④⑤ 比嘉一宏
⑤⑥ 仲大盛吉輝
職員 安藤義道
職員 井上隆弘
職員 及川隆光
旧職員 小沼寛光
職員 川井光
職員 川崎昇三
I J U 機関誌会員
協会 木村春夫
職員 國府田敬一郎
職員 齋藤亮一
職員 清水道夫
職員 中澤明男
職員 播田実かおり
職員 藤井絵美
職員 柳林ふちみ
職員 広木政昭
32期生一同



鯉淵学園60周年記念事業募金都道府県目標金額・実績表

平成16年12月6日現在 単位：万円

支部名	会員数	目標額	12/6現在 実績	目標比	備考	支部名	会員数	目標額	12/6現在 実績	目標比	備考
北海道	269	98	36	36.7%		京都府	105	48	26	54.2%	
青森県	69	16	8	50.0%		大阪府	54	24	6	25.0%	
岩手県	184	69	28	40.6%		兵庫県	134	68	21	30.9%	
宮城県	91	38	11	28.9%		奈良県	15	10	5	50.0%	
秋田県	109	43	15	34.9%		和歌山県	41	9	2	22.2%	
山形県	204	40	18	45.0%		小計	454	196	76	38.8%	
福島県	255	53	26	49.1%		鳥取県	64	15	5	33.3%	
小計	1,181	357	142	39.8%		島根県	163	33	15	45.5%	
茨城県	905	270	204	75.6%		岡山県	68	23	3	13.0%	
栃木県	234	79	30	38.0%		広島県	112	34	12	35.3%	
群馬県	126	44	20	45.5%		山口県	79	45	14	31.1%	
埼玉県	189	70	28	40.0%		小計	486	150	49	32.7%	
千葉県	206	72	32	44.4%		徳島県	25	9	1	11.1%	
東京都	128	46	40	87.0%		香川県	30	12	4	33.3%	
神奈川県	107	47	17	36.2%		愛媛県	52	17	3	17.6%	
小計	1,895	628	371	59.1%		高知県	40	13	5	38.5%	
新潟県	280	90	32	35.6%		小計	147	51	13	25.5%	
富山県	104	29	26	89.7%		福岡県	52	23	11	47.8%	
石川県	58	22	7	31.8%		佐賀県	73	22	9	40.9%	
福井県	179	39	23	59.0%		長崎県	51	19	2	10.5%	
小計	621	180	88	48.9%		熊本県	82	34	15	44.1%	
山梨県	31	16	11	68.8%		大分県	43	17	10	58.8%	
長野県	297	90	33	36.7%		宮崎県	130	37	12	32.4%	
岐阜県	52	27	7	25.9%		鹿児島県	139	49	19	38.8%	
静岡県	96	30	20	66.7%		沖縄県	156	33	40	121.2%	
愛知県	101	39	13	33.3%		小計	726	234	118	50.4%	
小計	577	202	84	41.6%		海外	18	2		0.0%	
三重県	47	19	6	31.6%		職員他			39		
滋賀県	58	18	10	55.6%		合計	6,105	2,000	980	49.0%	



鯉淵学園60周年記念募金期別目標額・実績表

平成16年12月6日現在 単位：円

卒業期	会員数	目標数	12/6現在 実績	目標比	卒業期	会員数	目標数	12/6現在 実績	目標比
1	49	161,700	90,000	55.7%	31	91	300,300	350,000	116.6%
2	94	310,200	310,000	99.9%	32	111	366,300	130,000	35.5%
3	103	339,900	230,000	67.7%	33	126	415,800	90,000	21.6%
4	90	297,000	490,000	165.0%	34	115	379,500	10,000	2.6%
5	71	234,300	330,000	140.8%	35	114	376,200	130,000	34.6%
6	27	89,100	140,000	157.1%	36	114	376,200	60,000	15.9%
7	74	244,200	390,000	159.7%	37	89	293,700	60,000	20.4%
8	78	257,400	160,000	62.2%	38	81	267,300	60,000	22.4%
9	100	330,000	460,000	139.4%	39	78	257,400	0	0%
10	103	339,900	440,000	129.4%	40	65	214,500	20,000	9.3%
小計	789	2,603,700	3,040,000	116.8%	小計	984	3,247,200	910,000	28.0%
11	78	257,400	340,000	132.1%	41	69	227,700	20,000	8.8%
12	55	181,500	160,000	88.2%	42	54	178,200	20,000	11.2%
13	89	293,700	250,000	85.1%	43	95	313,500	10,000	3.2%
14	91	300,300	230,000	76.6%	44	93	306,900	80,000	26.1%
15	91	300,300	310,000	103.2%	45	99	326,700	40,000	12.2%
16	73	240,900	160,000	66.4%	46	73	240,900	40,000	16.6%
17	63	207,900	320,000	153.9%	47	62	204,600	30,000	14.7%
18	55	181,500	130,000	71.6%	48	71	234,300	30,000	12.8%
19	96	316,800	310,000	97.9%	49	81	267,300	50,000	18.7%
20	85	280,500	170,000	60.6%	50	96	316,800	40,000	12.6%
小計	776	2,560,800	2,380,000	92.9%	小計	793	2,616,900	360,000	13.8%
21	89	293,700	70,000	23.8%	51	127	419,100	50,000	11.9%
22	132	435,600	110,000	25.3%	52	94	310,200	40,000	12.9%
23	163	537,900	420,000	78.1%	53	121	399,300	60,000	15.0%
24	152	501,600	270,000	53.8%	54	113	372,900	60,000	16.1%
25	170	561,000	360,000	64.2%	55	93	306,900	70,000	22.8%
26	143	471,900	230,000	48.7%	56	82	188,600	60,000	31.8%
27	117	386,100	160,000	41.4%	小計	630	1,997,000	340,000	17.0%
28	90	297,000	50,000	16.8%	通他	876	2,890,800	540,000	18.7%
29	82	270,600	80,000	29.6%	賛助	12	34,500	10,000	29.0%
30	89	293,700	110,000	37.5%	職員			360,000	
小計	1,227	4,049,100	1,860,000	45.9%	小計	888	2,925,300	910,000	31.1%
					合計	6,087	20,000,000	9,800,000	49.0%

満永正昭氏（4期生）

瑞宝小綬章の榮に浴す



満永氏は、平成十六年春の叙勲で、農林水産統計情報の充実・強化と組織の発展に尽力された功績により、瑞宝小綬章を受章されました。この受章は本人はもとより、鯉淵学園にとっても誠に名誉なことであり、心からお慶びを申し上げます。

氏は昭和二十四年、ご卒業と同時に農林省へ入省し、一貫して農林水産統計情報業務に携わり、主に政策価格の算定など行政上の利用が高い農業経済調査の実務や、利用し易い統計の作成に積極的に取り組み、各方面からの統計需要に対応されました。

特に、昭和三十六年から十七年間に、大臣官房調査課に在職し、「農業の動向に関する年次報告（農業白書）」を直接担当され、持ち前の優れた調査・分析力を駆使して「白書」の基礎づくりに貢献し、農政の推進に大きな功績を残されました。昭和五十三年には農林経済局統計情報部農林統計課課長補佐（総括）として、課内の業務運営に努力されるとともに、昭和五十年代の農政課題に対応するため、一九八〇年世界農林業センサスを通して

その実態を把握し、日本の農業構造の解剖に努力し、各行政部局の要望の実現に尽力するなど多大な功績を残されました。なお、昭和五十五年九州農政局宮崎統計情報事務所長、同五十七年関東農政局統計情報部次長、同五十八年には東海農政局統計情報部長に就任し、地域農林水産統計の充実に努め、農林水産行政の推進と農林水産統計の発展に大きく寄与されました。

昭和六十年のご退任後、財団法人農林統計協会理事、農民教育協会理事などを歴任され、鯉淵学園講師として「農政学」の講義を担当されました。

主な著書として、『現代日本農業の諸問題』（農林統計協会刊）、編著『農林統計の見方・使い方』（家の光協会刊）、共著『食料資源』（農林統計協会刊）、『日本農業の発展構造——一九九〇年世界農林業センサス分析——』（農林統計協会刊）などのほか、多数の優れた論文を執筆されています。

ここに重ねて氏のご功績を讃え、併せて益々のご健勝を念願致します。

鯉淵学園 初代学園長

小出満二先生 五十年忌（案内）

来る平成十七年五月二十九日(日)は、小出先生の五十年忌です。当日は十時三十分・多磨霊園正門前に集合して、十一時に墓参、十二時三十分から昼食、引き続き十五時頃まで、小出先生を偲ぶ集いを計画致しております。まだ会場など決めておりませんが、なるべく多磨霊園の正門近くでと思っております。準備の都合もございますので、参加ご希望の方は、平成十七年二月末日までに、同窓会本部事務局にご一報お願い致します。三月末に、道順・会場など、ご一報下さった方にご連絡申し上げます。

新潟県中越地震救援募金を行いました

新潟県中越地震の被災地域にお住まいの方々に対し、心からお見舞いを申し上げます。

被災地域には同窓生の方々が数多くお住まいで、家屋損傷など被害を受けられた方、避難所生活を余儀なくされた方などがおられます。一日も早い復興と、被災者の皆さんの心身のご健康をお祈りするばかりです。

在学生の中にも新潟県出身者がおりましたが、学生の家庭では大きな被害がなかったと聞いています。

鯉淵学園では、学生と教職員の有志一同が救援募金に取り組みました。集まりました金額は八万九千円でした。学生自治会の取り組みは、教職員一同として嬉しいことでした。

募金は、長岡市にお住まいで、酪農経営をされている廣川寛さん(40期)に託して、救援センターに届けていただきました。廣川さん宅も被災され、母屋の屋根瓦が落ちたり、停電のために一時牛の搾乳ができなくなるなど、ご苦労があったと聞き及んでいます。

被災地域は積雪の多いところです。冬に向かって雪に閉ざされると、復興作業も思うようにはかどらないのではないかと心配されます。生活への影響はもとより、来年以降の農業生産への影響も相当大きいと思われる。支援できることがあれば、同窓のみなさんとともに力を合わせて参りたいと考えます。

(教職員一同)